

〔新入社員の声〕

新入社員の声

花 本 紗代子

(伊藤忠飼料株式会社 研究所 予防衛生チーム)

〒 325-0103 栃木県那須塩原市青木 919)

All about SWINE 61, 39-40

私は2020年4月に伊藤忠飼料に入社し、同年6月に予防衛生チームに配属されて今年3年目になります。新入社員というにはフレッシュさに欠けませんが、入社から今まで経験してきたことを書かせていただきたいと思います。

まず、私が入社した2020年は新型コロナウイルス感染症が発生した年でもありました。その影響で例年入社後に行っていた農場研修は行えず、弊社研究所での研修から配属という異例のスタートとなりました。私は学生時代には豚と縁がなかったため、研修で初めて豚と関わることになりましたが、豚という動物の面白さや新鮮さを感じると同時に、豚を健康に大きくすることがいかに難しいかを実感しました。また、研究所ならではの餌の試験も経験し、餌づくりに想像以上の精密さが要求されることに驚かされました。

予防衛生チームに配属されてからは、疾病関連の検査と衛生面の支援を担当することになりました。研究所以外での現場経験がないため、検査の背景を先輩方に聞きながら、想像で補いつつ理解していく毎日でしたが、検査を通して豚の生産に関われる楽しさを知りました。

2年目にシムコ館山事業所にて研修させていた

だけることになりました。見て学ぶことが多かった研究所研修とは異なり、実際に自分で手を動かして考えると非常に身になることばかりでした。豚の移動一つとっても、農場の方がやっているのを見るのと自分がやってみるのでは全く違い、思い通りには動いてくれない豚たちを前に自分の力不足を痛感しました。どの部署でも様々なことを経験させていただきましたが、私が全体を通して学んだことは豚を観察することの大切さです。例えば分娩舎では、担当の方が母豚を一頭一頭丁寧に観察しており、それに応じた細やかな管理を行っていました。母豚の小さな変化に気づき早めに対応することで子豚への悪影響を抑え、その積み重ねが良い豚の基礎を作るのだと学びました。その観察眼には及びませんが、自分が飼養管理する立場だったらどう動くかと考えながら豚を見ることで、豚を見る目が養われたと思います。

また、現場の肌感覚を知って自分の仕事に立ち返ると、検査の重要性に改めて気づきました。

「これは急ぎで報告しよう」、「より良い検査法はないか」など、現場のためになる検査を意識するようになりました。

現在は検査業務に加え、検査方法の見直しや過

去の検査結果の傾向分析、代謝プロファイルに関する知見の収集やストレスを数値化する指標の検討などを行っています。できること、やってみた

いことは増えたものの、まだまだ分からないことだらけで周囲に助けられてばかりです。今後は恩返しができるよう頑張っていきたいと思います。